

風工学研究論文集 査読要領

風工学シンポジウム運営委員会
2019年 8月28日制定
2021年11月29日改定

風工学シンポジウム運営委員会は、風工学研究論文集（以下、論文集）の水準を保つため査読委員会を設けて厳正な審査を行い、論文登載の可否を決定するとともに、必要に応じて著者に原稿の修正を勧告する。

査読委員会は投稿論文の査読を各分野の専門家に依頼し、その査読結果に基づいて校閲、審査する。これを受けた運営委員会での登載可否の判定は次の手続きを経て行う。

- 1) 1編の論文に対し、2人の査読者に査読を依頼し、登載の可否の判定を仰ぐとともに、査読意見を求める。
- 2) 査読者は論文を「可」（「修正意見あり」または「修正意見なし」）、「再査読」、「否」で判定する。「修正意見あり」とは著者に対して軽微な修正を指摘し、修正結果を査読者が確認せず査読委員会に一任できる程度のものとする。
- 3) 「可」の判定は2人の査読者がともに「可」とした場合で、「再査読」は2人の査読者がともに「再査読」とするか、「可」と「再査読」とした場合である。なお、一方の査読者のみが「否」の判定を行った場合は「再査読」前に第3査読者に判定を依頼する。2人の査読者がともに「否」とした場合は「否」とする。（付表1参照）
- 4) 修正後の論文は1次査読で「再査読」と判定した査読者に再査読を依頼する。
- 5) 再査読は「可」と「否」のみで判定し、2名の査読者より「可」と判定された論文のみ「可」とし、「否」と判定した査読者が1名いる場合は査読委員会で審議する。2名が「否」とした場合は「否」とする。（付表1参照）

査読に当たっての留意事項

- 1) 査読手順について
 - ①査読依頼時には、論文タイトル、著者情報、アブストラクトを送付し、査読引き受け可否を確認する。査読引き受け可の場合のみ、論文ファイルを送付する。
 - ②査読結果は所定期限内に、査読システムを通じて回答する。
 - ③査読引き受け時に送られた論文ファイルは、査読終了後に査読者の責任において消去する。
 - ④登載の可否に係わらず、査読結果の内容は原則としてそのまま著者に送付される。
 - ⑤論文原稿は著者に返却しないので、すべての修正事項を査読システム上に回答する。
 - ⑥再査読は修正後の論文と回答に対して行い、「可」と「否」のみで判定する。再査読で「再再査読」の判定はない。
 - ⑦最終的な掲載可否、指摘事項などは運営委員会の責任において決定し、著者に通知する。
- 2) 論文内容および登載可否の判定について
 - ①本論文集は、風工学に関する研究成果、技術開発成果を論文として発表する場である。その内容は風工学に大きく寄与するものであるとともに、論文としての論理性、信頼度も要求され、正確に書かれていなければならない。
 - ②登載可否は、本論文集の主旨に従い判断されることとなるが、具体的な判断基準については、共催学協会の論文集の登載評価の判定基準に則り、総合的に判定する。
 - ③同じ内容の論文がすでに他誌に発表されている場合は否の対象となる（ただし、例えば、会社技報、学会大会などの概要集は除く）。
 - ④形式的な論文の体裁に関しては、査読委員会で審議する。

以上

付表 1

1) 第 1・第 2 査読者による判定

		第 1 査読者		
		「可」	「再査読」	「否」
第 2 査読者	「可」	「可」	「再査読」 *1	第 3 査読者に依頼
	「再査読」	「再査読」 *1	「再査読」 *2	第 3 査読者に依頼
	「否」	第 3 査読者に依頼	第 3 査読者に依頼	「否」

*1 1 次査読で「再査読」と判定した査読者に再査読を依頼する。

*2 両方の査読者に再査読を依頼する。

2) 第 3 査読者による判定

		第 3 査読者			
		「可」	「再査読」	「否」	
第 1・第 2 査読者判定	「否」	「可」	「可」	「再査読」	「否」
		「再査読」	「再査読」	「再査読」	「否」

3) 再査読による判定 *3

		第 1 査読者による判定	
		「可」	「否」
第 2 査読者による判定	「可」	「可」	審議 *4
	「否」	審議 *4	「否」

*3 第 3 査読者により査読が行われた場合は、どちらかを第 3 査読者に読み替える。

*4 審議は査読委員会にて行う。